

マルタ共和国マルサシュロックにおける漁村観光と空間構成

Fishing Village Tourism and Spatial Construction in Marsaxlokk, Malta

太田 慧*・飯塚 遼**

Kei Ota

Ryo Iizuka

摘 要

マルタ共和国は GDP の約 20% を観光業が占める観光立国である。本研究は地中海中央部に位置するマルタ共和国最大の漁村であるマルサシュロックを事例として、沿岸集落における漁村観光の展開と漁村の空間構成について明らかにした。マルサシュロックにおける施設や街区利用の分布状況を調査した結果、生活関連施設が卓越する中心地区とそれらを取り囲む住居群からなる生活空間、漁港と農地からなる生産空間、およびマルサシュロック湾を取り囲む観光空間の 3 つの空間構成要素から構成されていることが明らかになった。さらに、海岸線沿いに展開する飲食店と市場は、マルサシュロック湾に係留されている伝統的な漁船ルツとともに陸域と水域に及ぶ一体的な観光空間を形成していた。

I. はじめに

地中海の中心に位置するマルタ共和国は、古くから地中海貿易の要衝として栄えてきた。しかし、地中海の中心に位置する島の立地から軍事的に重要視され、長らくイギリス軍の基地経済に依存する経済体制となっていた。第 2 次世界大戦以降、1964 年にマルタはイギリスから独立すると、軍事産業からの脱皮として観光業が発展した。マルタ共和国最大の観光地は 1980 年にユネスコ世界遺産に登録された首都バレッタの旧市街であるが、マルタ島内に点在する漁村もまた独特な景観を有する観光地となっている。以上のようなマルタ島における漁村の観光地としての発達過程について、Young (1983) はマルタの漁業集落が、伝統的な漁村の形態から観光地へと発達する 6 つのステージを示した。すなわち、初期の伝統的な段階、後期の伝統的段階、初期の観光の模索段階、初期の観光の介入段階、観光開発の拡大する段階、および激しい観光地化の段階である。これら 6 つの段階を経て、マルタの漁業集落が観光地として発達してきた。一方、漁村の空間構成については、水産地理学あるいは漁業地理学の研究対象とされてきた。漁村研究の対象となる空間領

域は、漁港および漁業集落から構成されており、漁業活動拠点となる生産空間としての漁港、漁業者の住居・生活の場としての漁業集落からなる(中村, 2001)。しかし、従来の研究では、漁村を構成する空間が漁業との関連で論じられてきたため、空間構成要素として観光要素をとらえた研究はあまりみられない。このため、近年観光業の著しい成長を示すマルタ共和国における漁村の空間構成を明らかにすることによって、漁村観光の実態と可能性とらえることができる。そこで本研究では、マルタ島南東部に位置する漁村マルサシュロックを事例として、漁村観光の実態と漁村の空間構成を明らかにすることを目的とした。これにより、漁村における漁業者と観光客の共存する新たな漁村の空間構成を明らかにすることもできる。

II. マルタ共和国の概要

2.1 マルタ共和国の産業と観光の展開

マルタは地中海中央部に位置し、マルタ島、ゴゾ島およびコミノ島の 3 島から形成される共和国である(図 1)。マルタは大国に囲まれた地中海の中心という地理的条件から、絶えず周辺諸国に侵略を受けてきた。マルタには青銅器時代以前より文明があったとされるが、マルタの歴史は紀元前 10 世紀ごろに現在のレバノン周辺に居住していたフェニキア人がマルタに入植したことに始まった。その後、ローマ人、アラブ人、スペイン人、聖ヨハネ騎士団、ナポレオンによる征服と他国によるマルタの支配が続いた。最後の支配国は、

*首都大学東京大学院都市環境科学研究科観光科学域
日本学術振興会特別研究員 DC

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 (9 号館)

e-mail: ota-kei@ed.tmu.ac.jp

**首都大学東京大学院都市環境科学研究科観光科学域
日本学術振興会特別研究員 DC

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 (9 号館)

e-mail: ryo.iizuka.1986@gmail.com

1800年にフランスを破ったイギリスであった。イギリスの支配下においてマルタは地中海艦隊の基地となり、キプロスやジブラルタルの獲得に重要な役割を担った。

石灰岩質の土壌の肥沃度は低いため、土地は農業生産に適さなかった。そのため、マルタの経済はイギリス軍の基地関連産業に依存してきた。しかし、第2次世界大戦後、イギリス総督による自治権の剥奪によって、独立の機運が高まり、マルタは1964年にイギリスから独立した。1974年には大統領制に移行し、マルタ共和国が成立した。その後、2004年にはEUに加盟し、2008年には通貨もユーロとなった。マルタにおける主要な産業は、伝統的な造船・船舶修理のほか、イギリス軍撤退後においても北大西洋条約機構（NATO）の重要拠点として基地関連産業が中心であった。しかし、イギリスが1979年に軍事基地を撤去してからは、半導体や繊維産業に加えて観光業が伸長している。とりわけ、観光業の成長は目覚ましく、2013年現在で約14億4,000ユーロであり、GDPの約20%を占めるまでになった。このように、マルタは軍事基地から産業転換した観光立国である。2013年の観光客数は約160万人であり、そのうちヨーロッパからの観光客が51.8%を占めている（Malta Tourism Authority, 2014）。

2.2 マルサシュロックにおける観光

マルサシュロックは首都バレッタからおおよそ10km南東に位置する地方自治体¹⁾であり、マルタ島最大の漁村である。マルタ語でマルサは港を意味し、北アフリカからの局地風であるシロッコと組み合わせてマルサシュロックと名付けられた場所である。マルサシュロックにおける深い入り江は天然の良港であり、大包围戦時のオスマン・トルコ軍やナポレオンが率いるフランス軍が上陸した。

マルサシュロックの人口と世帯数はそれぞれ、3,366と1,129（National Statistics Office, Malta, 2014）である。その主要産業は伝統的な生業である漁業と、海産物グルメや朝市、伝統的な漁船が浮かぶ海岸景観を資源とする観光業であり、いずれも伝統的な生業である漁業と結びついたものとなっている。特に、地中海産の海産物が並べられる毎週日曜日の朝市は集落の中心地区で開催され、マルサシュロックにおける観光の目玉になっている。さらに、マルサシュロックの海岸景観を特徴づけるものは、マルサシュロック湾に浮かぶ伝統的な漁船であるルッツである（写真1）。このマルタ特有の漁船ルッツは、鮮やかに彩色された外観と、フェニキア人から伝えられた舳先に描かれた魔よけのお守り

りである一對の目が特徴である。



図1 マルタ共和国の位置



写真1 マルサシュロック湾におけるルッツ

鮮やかな外観が特徴的なマルタの伝統的な漁船である。舳先にはフェニキア人から伝えられた魔よけのお守りである一對の目が描かれている。

（2014年5月15日 筆者撮影）

Ⅲ. マルサシュロックにおける観光と漁村の空間構成

マルサシュロックにおける漁村を構成する空間領域は、漁業拠点としての漁港と居住・生活の場としての漁業集落²⁾から成り立つ。しかし、本研究の対象地域であるマルサシュロックにおいては、漁業と密接に結びついた観光業も漁業に次ぐ重要な産業となっている。



図2 調査対象地域とその街区構成

(Malta Environment and Planning Authority の地図をもとに作成)

したがって、観光現象が表出する観光空間としての側面に着目することが、漁村の空間構成を明らかにするために必要となる。そこで、ここでは漁業者の生活を支える住宅・生活関連施設の分布パターンと、観光客の観光対象となる観光関連施設の分布パターンを明らかにすることで、観光と関連した漁業集落の空間構成をとらえることにした。これにより、漁村における漁業者と観光客の共存関係が成立する空間構成を検討する。なお、本研究は2014年5月15日から17日にかけて実施した現地調査によって得られたデータに基づくものである。本研究では、集落の中心に位置し、多数の生活関連施設や観光関連施設が立ち並ぶマルサシュロック教区教会周辺の半径約250mの地区を調査対象地とした。

3.1 漁村・マルサシュロックの概要

マルサシュロックは、マルサシュロック湾の深い入り江の最深部に位置するマルタ島最大の漁村であり、マルタの首都バレッタから路線バスで40分程度の場所に位置している。図2には、本研究の調査対象地域であるマルサシュロックの集落全体図と街区構成を示したものである。マルサシュロックにおいては、ザッ

ト・イス=サジイーダ (Xatt Is-Sajjieda=漁師海岸の意味) と呼ばれる道路がマルサシュロック湾の沿岸を走っており、首都バレッタ方面へ通じるゼチューン通り (Triq Iz-Zejtun) との交差点に位置する広場が集落の中心地区となっている (写真2)。これら2つの幹線道路の他にも、集落には生活道路が走っており、それぞれの通りに名前が付けられている。東西方向には、北から順にカジック通り (Triq Il-Kajjik)、サンタ・カテリーナ通り (Triq Santa Katerina)、サン・アンデレ通り (San' Andrija)、サン・フランシス通り (Triq Aan Frangisk)、ルズ通り (Triq Il-Luzzu) である。南北方向には、西から順にアズネル通り (Triq L-Arznell)、カサール通り (V. Cassar)、フィリーラ通り (Firilla)、サン・ヨセフ通り (San Guzepp)、ダンカン通り (Duncan)、グリヌン・マルスカルコ通り (Triq Gulinu Maniscalco) である。

集落の中心地区にはマルサシュロック教区教会をはじめ、首都バレッタからの路線バスの停留所であるマルサシュロック停留所などの施設が集中している。さらに、集落の中心地区における広場は毎日午前中に開かれる市場が立つ場所でもあり、観光客や地元の住民が集まる場所でもある (写真2)。マルサシュロックに

おける市場については、集落の中心地区の広場からザット・イス＝サジイダ沿道に出店される。地中海産の海産物が並べられる日曜日の朝市が名物であるが、お菓子や民芸品などの土産物を売る市場は平日にも出店される。また、集落の東地区は近代的な漁港として整備されており、多数の漁船が係留されている。漁港の背後の微高地となっており、日当たりのよい南側の斜面はオリーブ畑として利用されている。集落やオリーブ畑より北側の地区は、1990年代以降に新たに開発された新興住宅地が広がっている³⁾。



写真2 マルサシュロックにおける集落中心地区の広場
首都バレッタへ通じるゼチューン通りと海岸通りであるザット・イス＝サジイダの交差点に位置する。写真中央の塔はマルサシュロック教区教会。

(2014年5月15日 筆者撮影)

3.2 住居・生活関連施設の分布

調査対象地区の集落において、住居に関連する施設について調査した。住居に関連する施設に関しては、住宅182棟、新築住宅10棟、空家9棟であった。また、生活関連施設については、グロッサリー5軒、雑貨店2軒、役所・警察署3件、銀行2軒、医院1軒、倉庫9軒、漁具店1軒であった。これらの住居および生活関連施設の分布パターンは、図3に示している。これによれば、新築住宅や空家を含む住居に関連する施設は集落全域にわたっているが、特に海岸線沿いのザット・イス＝サジイダより内陸側のアズネル通りやサンタ・カテナ通り沿道などに分布する傾向がみられた(図3、写真3)。特に、新築住宅については、10軒のうち7軒がサンタ・カテナ通り沿道に立地していたが、この傾向は集落の北側の地区が1990年代以降に新興住宅地として開発されたこととの関連が示唆される。これらの新築住宅を含む住居は、マルタ島特産の

マルタストーンとよばれるハチミツ色の石材を積み上げて建設されており、生活道路沿道の景観をマルタ特有のものにしている(写真3)。

また、グロッサリーや雑貨店といった日用品を扱う店舗の分布パターンは、海岸線沿いのザット・イス＝サジイダより内陸側のサンタ・カテナ通りやアズネル通りといった生活道路沿いに分布する傾向がみられた。同様に、漁具などを保管する倉庫についても、海岸線沿いのザット・イス＝サジイダより内陸側のカジック通りやアズネル通り沿道に分布する傾向がみられた。一方、役所・警察署、銀行、および医院などの専門的な施設は、ゼチューン通り沿道と教会周辺の集落の中心地区に集中していた。このような分布パターンは、ゼチューン通りが首都バレッタに通じるバス路線であり、住民生活を支える幹線道路であることが大きい。以上のように、マルサシュロックにおいては漁業集落の中心地区を貫通する道路沿いに住民生活の拠点となる生活関連施設が分布する一方で、その周辺に住居や倉庫が分布する傾向がみられた。このような分布パターンは、日本の漁業集落についても同様の傾向がみられる⁴⁾。

次に、漁村における生産活動の中心である漁港の特徴についてみていく。マルサシュロックにおける生産活動の拠点である漁港は、集落の東地区に整備されている(図3)。漁港の背後は微高地となっており、オリーブ畑やタマネギ畑として利用されているため、漁港の周辺には住居や生活関連施設はあまりみられない。マルサシュロック東地区における漁港は、背後に微高地が立地する急峻な地形であるため、マルサシュロック湾内において比較的水深が深い。このため、エンジンを備えた大型・中型の漁船を係留するのに適した自然条件を備えている。漁港は近代的な漁港として整備されており、岸壁にはエンジン付きの漁船専用の給油設備が備えられている。漁港に係留されている漁船の特徴をみると、エンジン付き漁船の多くはルツツにみられるような伝統的な鮮やかな塗装が施されていない。つまり、これらの漁船は漁のための実用的な船であり、漁業の生産活動のために用いられるものである。以上のことから、マルサシュロックの東地区は水域の漁港と陸域のオリーブ畑やタマネギ畑をからなる生産活動の空間となっている。



図3 住居・生活関連施設の分布

(現地調査により作成)



写真3 マルサシュロックにおける住居

マルサシュロックにおける住居は海岸通りより内陸側の生活道路沿いに分布している。ハチミツ色の建材であるマルタストーンは新築住宅にも利用される。

(2014年5月17日 筆者撮影)

3.3 観光関連施設の分布

観光関連施設については、レストラン18軒、宿泊施設を併設したレストラン1軒、カフェ・バー8軒、宿泊施設1軒、土産物店3軒、エステ店5軒、釣具店1

軒であった。これらの観光関連施設の分布パターンは、図4に示した。これによれば、海岸線を走るザット・イス＝サジイーダ沿道に集落のレストランあるいはカフェ・バーのほとんどが分布している。このような分布の理由は、景色のよいマルサシュロック湾に面したザット・イス＝サジイーダは、観光客が集まる道路であることが大きい。また、マルタの伝統的な漁船であるルッツは、これらの飲食店に面した海面に係留されている。ここに係留されているルッツは動力を備えておらず、漁業に適したものではない。つまり、これらのルッツは、いわば観光用の飾りとして海面を彩っているのである。

ザット・イス＝サジイーダ沿道の飲食店には海に面したテラス席が用意されており、ルッツに係留されているマルサシュロックの風景をみながら食事を楽しむのに適した空間構成となっている(写真4, 5)。Pearce (1995) はイギリス、フランス、およびアメリカの海岸リゾートの状況から、リゾートにおける海岸通りはそれ自体が消費の場であり、同時に目的地であると指摘している。つまり、マルサシュロックにおいては、海岸通りであるザット・イス＝サジイーダは観光客が

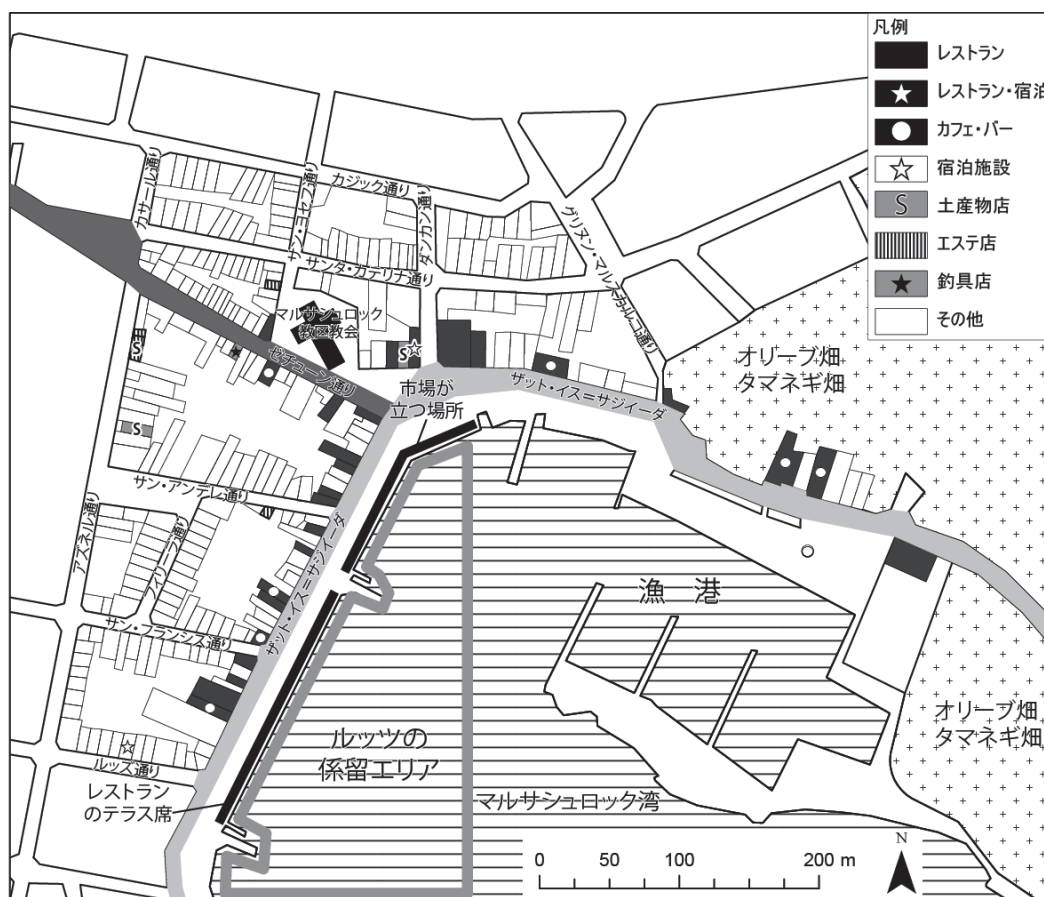


図4 観光関連施設の分布

(現地調査により作成)

飲食したり市場で土産物を買ったりする消費の場であると同時に、色鮮やかなルッツが浮かぶ地中海の漁村の景観を楽しむための目的地として機能している。このように、海岸通りであるザット・イス＝サジイダ沿道に展開する市場やレストランのテラス席は、海面に浮かぶルッツとともに陸域と海域に及ぶだけでなく、さまざまなアトラクション機能を包摂した一体的な観光空間を形成している（写真5、6）。

一方、エステ店や、商品の販売を目的とした土産物店については、必ずしも海岸通りであるザット・イス＝サジイダ沿道には分布していない。エステ店や土産物店については、サービスが室内で提供されるために、外の景色を取り込むための道路に面した幅の広い開口部や窓を備える必要がない。海岸通りであるザット・イス＝サジイダ沿道は、景色がよく観光客が集まる反面、テナント料が高額である。以上の理由により、エステ店や土産物店はザット・イス＝サジイダより内陸のアズネル通り沿道に分布している。



写真4 マルサシュロック湾

伝統的な漁船であるルッツが係留されている。これらのルッツはザット・イス＝サジイダ沿いに展開するレストランのテラス席とともに一体的な観光空間を形成している。

(2014年5月15日 筆者撮影)



写真5 海岸通りであるザット・イス＝サジイーダレストランのテラス席とテントが立ち並んでいる。日中は観光客でにぎわう。

(2014年5月15日 筆者撮影)



写真6 マルサシュロックにおける市場の様子
海岸通りザット・イス＝サジイーダと幹線道路ゼチューン通りの交差点付近の広場に立地する。平日の日中はマルタの民芸品などの土産物が売られている。

(2014年5月15日 筆者撮影)

IV. マルサシュロックにおける空間構成—むすびにかえて—

これまで、マルタ共和国における観光の展開とマルサシュロックにおける空間構成について検討してきた。その結果、マルサシュロックの空間構成は、教会を中心に生活関連施設が卓越する集落の中心地区、それらを取り囲む住居群、およびマルサシュロック湾を取り囲む観光空間から構成されていることが確認された(図5-a)。教会の周辺にはグロッサリーや役所や銀行といった生活関連施設が分布しており、この傾向はマルサシュロックとマルタの首都バレッタを結ぶ幹線道路沿いに著しくみられた。海岸通りであるザット・イス＝サジイーダ沿いに展開する飲食店と市場は、マルサシュロック湾に係留されている伝統的な漁船ルツとともに陸域と水域に及ぶ一体的な観光空間を形成していた。一方、集落の東地区においては、海岸通り境に南側の水域が漁港、北側の陸域が農地として利用されており、いずれも集落における生産空間となっていた。以上のように、マルサシュロックにおいては、住居や生活関連施設からなる生活空間、飲食店・市場と水上のルツ船からなる観光空間、および漁港と農地を中心とした生産空間という3つの空間構成となっていることが明らかになった。

最後に、沿岸集落における漁村観光の空間構成について模式的に表したものが図5-bである。漁村観光の空間構成要素は、観光空間、生活空間、および生産空間の3つの空間構成要素からなる。漁村における観光関連施設は、観光客に対して様々なサービスを提供する観光空間として機能する。一方、生活空間と生産空間については、漁村における日常の営みの空間自体が潜在的な観光資源となる。漁村観光の空間は、観光空間、生活空間、および生産空間の3つの空間構成要素にまたがるものであると考えられる。これら3つの空間構成にまたがる漁村観光の空間は、観光活動と漁業者の生活や生産活動を共存させ、互いに相乗効果を生み出すものである。

以上のように、マルサシュロックにおける漁村観光の空間構成要素は、観光空間、生活空間、および生産空間の3つの空間構成要素からなるものである。これらの空間構成は、観光活動と漁業者の生活や生産活動を共存させるものであり、マルサシュロックが持続可能な海岸観光地となる可能性を示している。

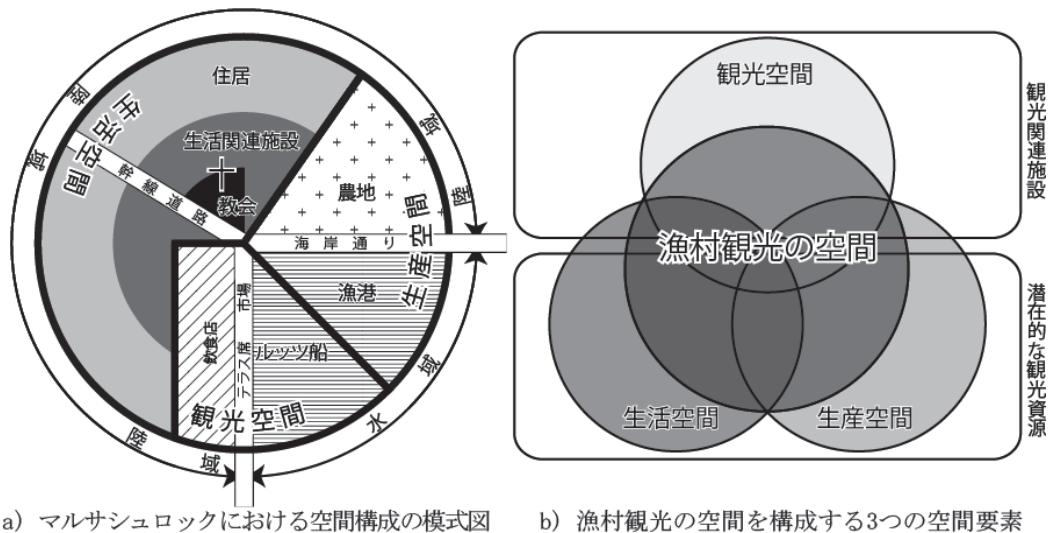


図5 沿岸集落における漁村観光の空間構成

注

- ¹⁾ 国土面積が 316Km² と狭小であるため、日本でいうところの都道府県レベルの自治体は存在せず、国土全体で 68 の地方自治体 (kunsilli lokali) に分かれている。
- ²⁾ 中村 (2001) は、漁業にかかわる空間領域として、①漁場としての水域、②漁業拠点としての漁港、③漁業者の居住・生活の場としての漁業集落、④漁業生産物の消費の場としての背域の 4 つの空間領域を挙げているが、②の漁港を③の漁業集落に包摂するものとしてとらえるべきであると主張している。本研究においても、この主張に沿った漁業集落の定義を採用した。
- ³⁾ Bramwell (2007) の図による。
- ⁴⁾ 中村 (2001) は宮崎県南郷町の事例において、集落の中央部を東西に貫通する国道 220 号線沿いに小売業や行政機能などの住民生活の拠点となる施設が集中していることを明らかにした。

参考文献

中村周作 2001. 漁業集落の土地利用変化と漁港の発展. 歴史地理学 43-3 (204): 3-19.

- Bramwell, B. 2007. Complexity, interdisciplinarity and growth management: The case study of Maltese resort tourism. Agarwal, S. and Shaw G. 2007. Managing coastal tourism resorts : A global perspective: 73-89. Clevedon: Multilingual Matters.
- Frans A. A. 2011. The mAZe street atlas 7th edition. Malta: Up Trend Publishing. Malta.
- Malta Tourism Authority. 2014. Tourism in Malta edition 2014.
- National Statistics Office, Malta. 2014. Census of population and housing 2011 final report.
- Pearce, D. 1995. Tourism today: A geographical analysis second edition, Longman Scientific & Technical.
- Young, B. 1983. Touristization of traditional Maltese fishing-farming villages: A general model. Tourism Management 4(1): 35-41.